

## 2015 年度地銀特別セミナー

吉田 武志

2016 年最初のコラム執筆にあたり、本コラム執筆者一同を代表してご挨拶申し上げます。本コラムの読者の皆様、明けましておめでとうございます。本年も引き続きよろしく申し上げます。

さて、昨秋開催した DBJ 金融アカデミー「地銀特別セミナー」については、直後に本ホームページで速報した (<http://www.dbj.jp/ricf/academy/index.html#sp>) ところではあるが、4 回目の開催にして始めて当行本店を離れて東北で開催したこともあり、本紙面を借りて改めてその狙いや成果について報告したい。なお、当行本店で実施した前回の様子については、本コラム第 39 回に、また、DBJ 金融アカデミーについては同 56 回に掲載されているので、併せてご覧頂ければ幸甚である。

2015 年度の地銀特別セミナーは、昨年 10 月 28 日から二泊三日の行程で、岩手県と宮城県を移動しながら実施した。初の地方開催にも関わらず、北海道から鹿児島まで、前回は上回る地域金融機関 32 行から、各行の将来を担う中堅行員の方々に参加していただいた。岩手県および宮城県で開催した狙いは、2011 年の東日本大震災から 4 年が経過し、被災直後の状況から復興の来し方を踏まえ、改めて、地域金融機関の震災・復興時の役割や、今後のリスクファイナンスの方向性について、被災地の視察や被災者である語り部ガイドの話も伺いなら考察せんとするものであった。

講師は、初回から本セミナーの講師とグループディスカッションのコーディネーターをお願いしている立命館大学の垣尚司先生を始め、開催地地元の岩手銀行高橋会長、被災企業経営者、当行職員等が務めたが、被災地である岩手県陸前高田市と宮城県南三陸町の語り部ガイドのお話も今回のセミナーの重要な要素であった。

セミナー終了後のアンケート結果をみると、被災地以外の参加者では初めて被災地を訪れる方も多く、被災地視察や語り部ガイドに対して貴重な体験とする声や、同業他行の職員と共通の設定課題に取り組むグループディスカッションに刺激を受けたとの声等が目についたが、各講義ともに高い評価をいただいている。本セミナーで得た気づきや参加者および講師間で出来たネットワークが、地域金融機関が今後のあり方を検討する際の一助となることを期待したい。

2016 年 1 月 12 日